

神戸市緑の基本計画 市民アクション編（構成案）

緑と生きる
緑生都市神戸 2050

1. はじめに

基本理念 緑とともに生き続ける都市＝緑生都市

神戸市では、市民・事業者・市などが協力して、環境にやさしく快適に過ごすことのできる緑豊かなまちをつくらせたいと考えています。

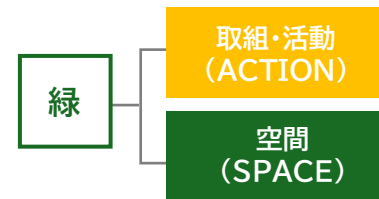
そうした想いの下で、神戸市の緑の将来像、緑豊かなまちをつくるための取組みの方針、目標値をまとめた「神戸市緑の基本計画」を策定しました。緑が育つには時間がかかるため、長期的な視点での取組も必要です。

このため、この計画は、2025年から2050年の25年間を計画期間としています。

緑のまちづくりは、神戸の緑を知り、触れて緑を楽しみ、深く緑を知って生き生きと暮らすことのできる取組です。この市民アクション編では、緑が持つ役割や、神戸市で緑に関わるためにどんな活動ができるのかといったことについて、まとめており、神戸が50年、100年後も緑が豊かで輝いている都市、生命に満ちあふれた都市であることを目指していきます。

2. そもそも緑って？（緑の定義）

「緑」は、一般的には樹木、草花などの植物のことを示しますが、この計画では、オープンスペースや水面などで構成される「空間」や、飾花活動や里山活動などその空間を使った「取組・活動」も含む広い意味で「緑」という言葉を使っています。



3. 緑には、たくさんの役割と効果があります

緑の役割や効果に目を向けてみると、緑を楽しむ取組や活動は、とても幅が広いことが分かります。



4. 神戸が緑豊かで輝いている都市であるために

これから神戸市が50年、100年後も緑が豊かで輝いている都市、生命に満ちあふれた都市であり続けるためには、気候危機（地球温暖化）、生物多様性の低下、大規模災害のおそれなど環境や自然現象に関する課題に向き合っていく必要があります。また、人口減少や少子高齢化など、社会の変化に伴う新しい課題を解決していく必要もあります。

空間の効果を発揮させるために



●市域の約40%が森林で、二酸化炭素の吸収やヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の基盤などの役割が期待されています。こうした森林の持つさまざまな機能を発揮させていくためには、森林を健全な状態に管理する必要があり、森林を管理する人材の充実のほか、これまでも取り組んできた森林間伐材の活用をさらに進めていく必要があります。



●街路樹や公園の緑は神戸のシンボルらしい景観を形成し、強い日差しを和らげ、災害の防止や生き物の生息空間としても役立っています。これらの効果を最大限に活用するため、市街地の緑を質、量ともに充実させていく必要があり、市民、事業者、行政が協力することが必要です。またデジタルテクノロジーの活用した維持管理の効率化も検討していく必要があります。



取組・活動の効果を発揮させるために

●これまでの都市公園の管理運営は、市内でほぼ一律の仕組みで行われてきました。しかし、市民意識の変化や利用ニーズが多様化する中で、公園の利用者が自ら公園のルールを作り、管理にも携わっていくことが必要となっています。また、そうした取組を通して、コミュニティづくりの場ともなっていくことが望めます。



●神戸市の公園面積は、市民一人当たり約17㎡あり、政令市のなかで最も高い数値です。しかし、老朽化が進む公園があるほか、少子高齢化など社会構造の変化を見据えて、より多くの市民が安全かつ効果的に利用できるように、適正な公園管理や改修を進める必要があります。

広がっていく効果を発揮させるために



●神戸の緑と人々の暮らしを結びつけていくことで幸福度（Well-being）を高めていくことができると考えられます。このためには、市民、事業者、行政が協働しながら、神戸の緑を育み、その恵みを活かし、楽しむ活動を積み重ねることが望めます。そして、こうした取組によって育まれた神戸らしい美しい景観は、神戸の魅力を一層高めることにつながると考えられます。



●神戸市では、これまでも、公園のにぎわいづくりやイベント・プログラムの開催などを通じた利用促進を行ってきました。これからもより一層、市民、事業者、行政が協力して魅力ある公園づくりを行うことで地域の魅力を高め、さらにはまちの活性化、価値創造にもつなげ、神戸市のブランド力を高めていくことが望めます。

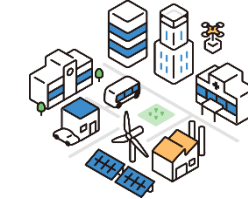
効果を発揮させた結果、解決できる課題の一例



Well-being
（幸福度の向上）



高温常態化



持続可能な社会



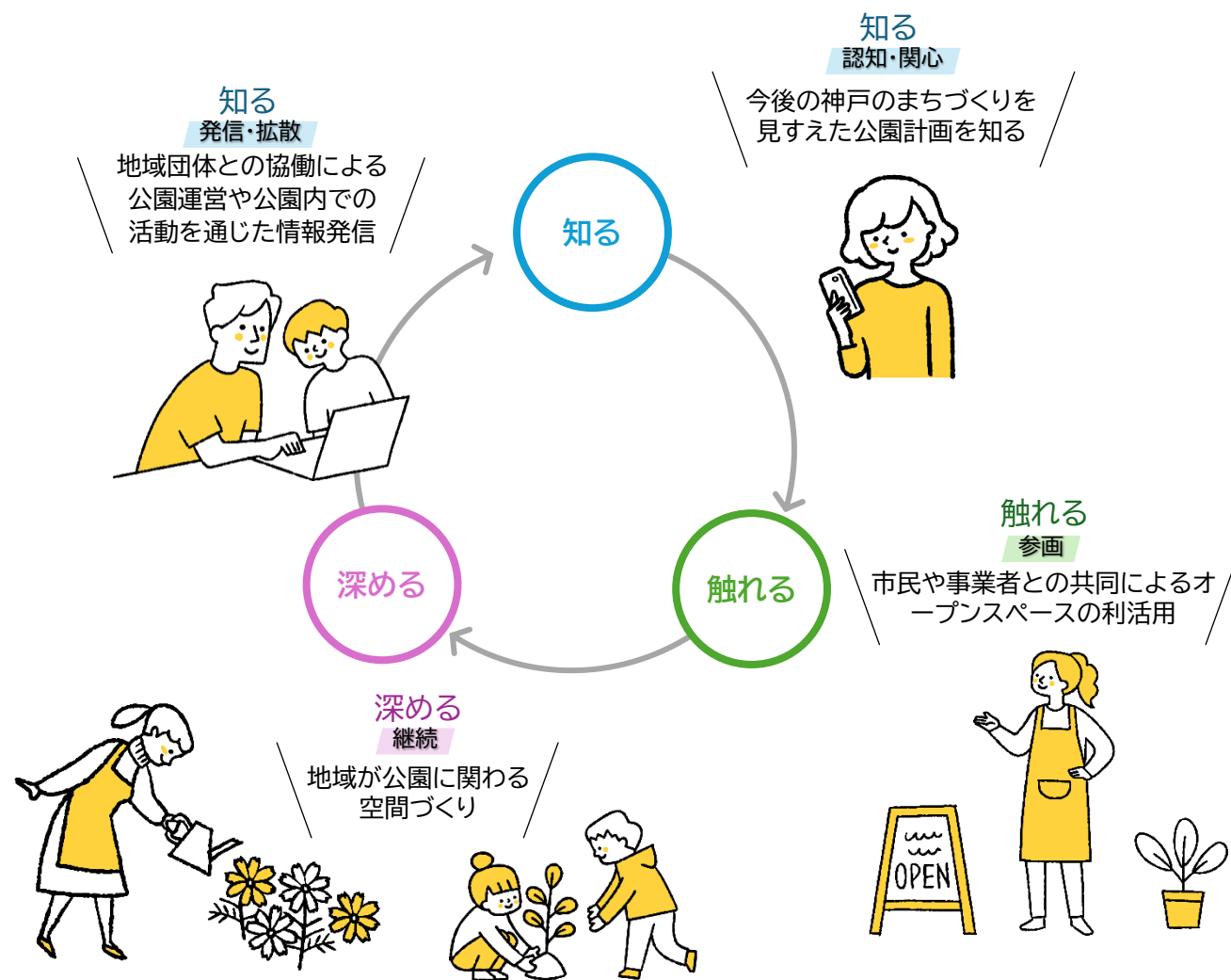
生物多様性の向上



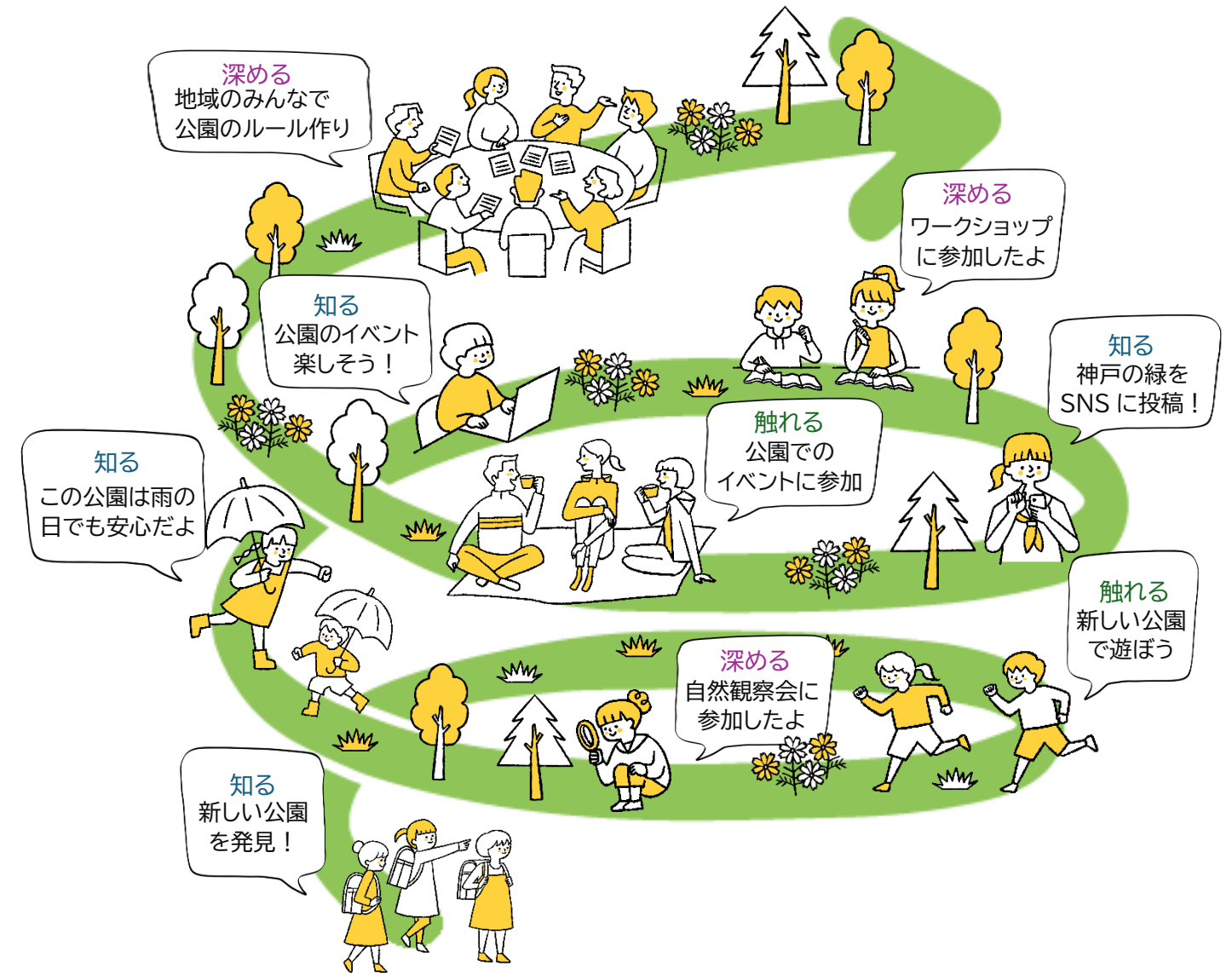
防災への備え

5. 神戸の緑に関わってみましょう

緑の3つの効果を最大限に発揮させるため、まずは、みどりを「知る」ことから始め、みどりに「触れる」ことで参加し、活動を継続することで緑への関心を「深め」てみましょう。神戸市では、すべての人が神戸の緑に関わり続けることができるように、様々な取組を進めていきます。



「知る」、「触れる」、「深める」の取組を続けることで、より大きな取組へとつながり、その取組が人から人へ広がっていきます。例えば公園での取組では、公園を知ることから始まり、公園というフィールド内で様々な取組を行うことで、まちの活性化、地域でのコミュニティづくりなどへとつながっていきます。



神戸市でできる緑の取組

神戸市では、市民・事業者の皆さんとともにみどりを育てるため、たくさんの取組を行っています。緑に関心のない人も、緑の専門家も、みんなで神戸の緑を、育て、活かし、楽しむ、そして継続してみましょう！

知る



令和5年度
緑関連 SNS 総フォロワー数 **10万人**以上

神戸市緑の情報発信

神戸市の緑にまつわる SNS では、市民が参加できる緑のボランティアなどの取組の様子や、神戸市の美しい緑の様子などを紹介をしていますので、ぜひチェックしてみてください！

触れる



令和5年度
東遊園地での年間イベント 約**40**件

公園でのイベント

東遊園地では、パークフィットネスやヨガ教室、芝生の演奏会、ナイトピクニックなどイベントが盛りだくさん！学んで、遊んで、集える、そしてみんなで成長していく東遊園地にぜひ足を運んでみてください♪

深める



令和5年度
美緑花ボランティア数 約**700**件

まちの美緑花ボランティア

身近な公園などの日常のお世話をしているのは、実は市民ボランティアなのを知っていますか!? まちの美化はもちろんのこと、安心安全な地域づくりにたくさんの市民ボランティアさんにご協力いただいています！